



山王御祭禮版附
万延元年(1860)月豊原国周/画
江戸東京博物館蔵

天下祭(てんかまつり)とは?

江戸時代に日枝神社・神田神社(東京都千代田区)で行われた壮大なお祭りです。江戸幕府の援助を受け、江戸城内で将軍の上覧に供された山車行列が特徴で、「天下祭」と呼ばれるようになりました。明治以降、東京の近代化が進み江戸型の背の高い山車は曳く事ができず衰退。現在は御輿が主役のお祭りとなっています。

佐倉の山車と天下祭

佐倉では明治12年～13年に「江戸で使われていた」と言われた山車を佐倉藩総鎮守 麻賀多神社の氏子である新町の複数町会が購入しました。天下祭は当時の錦絵が残されており、近年の調査で佐倉の山車や山車人形はその絵の山車と特徴が非常に似ており「天下祭」で使用されていたものとわかりました。

戦前に多くの山車は経年劣化や故障で曳く事ができなくなりましたが、文化遺産を守り続けて来た町会の方々の努力と、文化庁、佐倉市の補助金を活用し山車を復元させてきました。天下祭で使用された山車が当時の姿のまま複数現存するのは非常に珍しく、当時の江戸の技術と文化を現在に伝えています。

なぜ今、佐倉で天下祭?

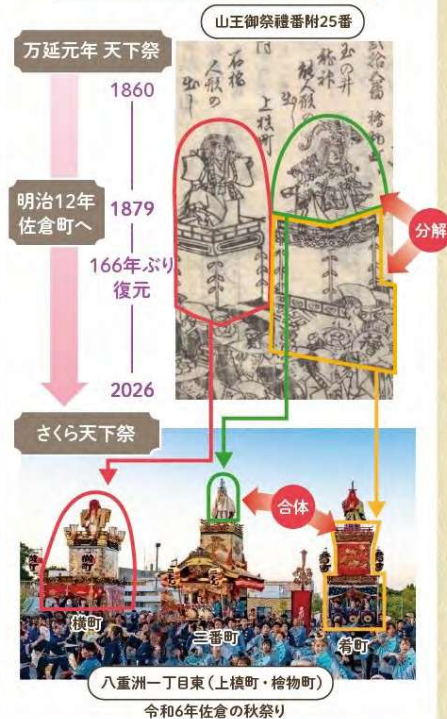
佐倉は江戸時代に老中の城と呼ばれた佐倉城があったことで江戸との交流が深く、古くから江戸のお祭りや似た形のお祭りをを行い佐倉城の殿様が見たという記録があるお祭りです。桜咲く佐倉城址を舞台に令和に復元した山車を活用し、更に佐倉の秋祭りでは不可能な町会の枠を超えて「天下祭」を再現。江戸と佐倉の祭礼を通じた文化交流と江戸文化の中心であった祭礼文化を次世代へ継承する特別企画です。江戸が失った江戸の祭礼文化を桜咲く佐倉で今、あなたの目で…。

六月十五日山王御祭禮練込図
万延元年(1860)歌川芳虎/画 江戸東京博物館蔵



将軍のお膝元である江戸城内への練り込みが許されたこの祭りは、まさに「天下」の名にふさわしい豪華絢爛なものでした。画面を埋め尽くす見物人と、誇らしげに曳き回される煌びやかな人形山車が連なる光景からは、江戸っ子たちの心意気と祭りの喧騒が聞こえてくるようです。

参加町内の山車の変遷図



往路 ← 復路 → 会場より徒歩10分程度の場所に無料駐車場がございます(田町駐車場・御三階駐車場)

イベントマップ・スケジュール

11:00~12:00 国立歴史民俗博物館 講堂
特別講演 徳川宗家と佐倉藩 ※要申込
徳川宗家 第19代当主 徳川家広氏による講演

10:00~15:00 城址公園自由広場
天下祭城下市
城下町佐倉の春を祝う
様々な出店が大集合

10:00~16:00 麻賀多神社
鎮守の杜マルシェ
地元出店者による美味しいものと
手作り小物とワークショップ
里神楽演奏 14:30~15:00

10:00~16:00 車両通行止め

12:30~14:30 城址公園自由広場
江戸型山車曳き廻し
●天下祭のご上覧を現代に
徳川宗家当主 徳川家広様
佐倉藩藩主堀田家当主 堀田正典様

13:00~ 城址公園自由広場
天下祭セレモニー
●佐倉囃子保存会演奏

15:30 山車到着

17:00 山車到着

9:30 山車出発

佐倉歴史お散歩コース
歴史を感じながらお散歩できるコースです。
お花見がてら歩いてみよう♪

★見る

- 江戸型人形山車の曳き廻し
- 佐倉囃子演奏 / 里神楽演奏
- 佐倉型屋台の花車観覧

★学ぶ

- 徳川宗家による講演会
- 江戸型人形山車の城門潜り
人形昇降実演解説
- 歴博見学(日本橋小学生)

★遊ぶ

- 天下祭城下市 / 鎮守の杜マルシェ
縁日の雰囲気を楽しもう
- 佐倉藩武家文化保存会による
甲冑体験 / 手裏剣体験



昭和11年 佐倉新町大祭の様子

「佐倉新町江戸まさり」

明治12, 13年に佐倉新町の町会が日本橋方面から天下祭由来の江戸型人形山車を移譲・購入したことに由来する言葉です。これにより、佐倉の秋祭りが江戸の天下祭を継承し、上回るほどの華やかさを誇った様子を表したものです。佐倉藩は歴代藩主20名のうち9名が老中の要職につく「老中の城」と呼ばれ江戸防衛の要衝として、江戸との強い結びつきが天下祭の山車の移譲を可能にし、山車祭りが城下町の繁栄の象徴になりました。また佐倉の祭礼文化は、江戸っ子気質の「粋」と「助け合い」が今も色濃く残っていて、町人たちが文化を継承し行政や地域の支援を活かして伝統を守っています。